

若手研究者育成セミナー参加レポート

若手育成セミナーから学ぶ、研究の楽しさ

兼久 賢章

(九州大学大学院 薬学研究院 創薬科学科専攻
ライフイノベーション分野 修士課程2年)

九州大学薬学部ライフイノベーション分野に所属しております兼久賢章と申します。現在、津田誠教授のもとで慢性搔痒病態の研究をさせていただいています。この度は、若手セミナー第10回という節目の回において、このような執筆の機会を設けてくださった日本神経化学会関係者の方々に厚く御礼申し上げます。拙い文章ではありますが、少しでも若手育成セミナーに参加して感じたことやセミナーの魅力について皆様にお伝えすることができれば幸いです。また、本稿では、大会を通じて私が感じた“研究の楽しさ”についてもお伝えできればと思います。

第10回若手育成セミナーは、仙台の地で、日本神経化学会と並行して、2日にわたって開催されました。1日目はグループディスカッションとフリーディスカッション、2日目はフリーディスカッションという内容でした。5グループから希望したセッションに分かれ、それぞれ講師の先生方に、講義をしていただくというもので、私は、東京都医学総合研究所の七田崇先生から「脳梗塞と炎症～炎症は敵か？味方か？～」、大阪大学医学研究科の山下俊英先生から「中枢神経回路の修復のメカニズムと治療法の確立」というタイトルのグループBを受講しました。炎症という生体防御機構は、自身の研究テーマである“かゆみ”と密接に関係しており、その複雑さに強い興味を持っていたことと、脊髄や脳といった中枢神経系の病態に対する治療の最先端を知りたいと思ったことから、このセッションを希望するに至りました。

七田先生は、脳梗塞後の炎症の収束メカニズムについて丁寧に分かりやすく説明して下さい、炎症時の免疫応答について理解が深まりました。炎症は病態の悪化を招くように思われますが、そのような中で、炎症が我々の生体においてどのような役割を担っているのかについてディスカッションし、大変有意義な時間でした。また、論文投稿する上で直面した困難、そしてそれをいかに乗り越えたかについて、体験談を交えてお話して下さい、普段では聞くことのできない貴重なお話を聞くことができました。

山下先生は、神経障害による運動機能不全に対する治療の最先端のお話をして下さり、特に損傷を受けた神経の伸長阻害メカニズムについて大変勉強になりました。サルを用いて、薬の運動機能改善を評価した動画は衝撃的で、話にどンドン引き込まれていきました。さらに、研究者の抱える不安、についてもお話していただき、「私もここ1年でようやく不安がなくなってきた」とおっしゃっていたのが印象的でした。ましてや学生は誰も不安な気持ちを抱えて研究しているという話を聞いて、決して自分だけが不安なわけではないと思うと、少し気持ちが楽になりました。

グループディスカッションを終えた後は、別会場の宿舎にて、講師の先生方をはじめ、多くの著名な先生方、そしてセミナーの受講生と食事をしながらのフリーディスカッションの場が設けられていました。グループディスカッションよりさらに近い距離で、研究者にとって重要な構えや考え方などを各

分野で活躍されている先生方から聞くことができました。研究をしていく上で抱える将来への不安に対してどのように向き合えばよいか、研究をスタートして間もない自分が今どういったことに力を注ぐべきかなど、様々なバックグラウンドの先生方が親身になって考え、教えて下さり感銘を受けました。最初は、どうしてここまで親身になって話して下さるのだろうかと思っていましたが、多くの先生方が口をそろえて、神経化学会には他の学会にはない特別な雰囲気があって、家族意識・仲間意識が強くアットホームな場、とおっしゃられているのを聞いて、まさに親の身で話して下さっているのだと感じました。また、このフリーディスカッションでは、他研究室の学生の方や少し上の方とも気兼ねなく話をする機会が得られるのも特徴の一つで、普段の研究生活での悩みを共感し合い、解決のヒントを得る良い機会となりました。加えて、同じ大学院生という立場ということもあって、研究の話ですぐに打ち解け合うことができ、研究の輪を広げる機会にもなりました。こうしたフリーディスカッションは二日に渡って設けられており、研究室では知ることができないまた違った“研究の楽しさ”をこのセミナーを通じて、肌で感じました。私は修士課程2年生で、学会の経験もあまりなく、右も左も分からない不安だらけの参加でしたが、学会を終えて、参加して良かったと思えたことは、また参加したいという原動力、研究のモチベーションにもなり、これからの研究生活の大きな財産となったと思います。

本セミナーを受講して、私が感じた研究の楽しさは、未知なる生命現象の解明や新たな発見にとどまらず、様々な分野の人とつながること、そして、ディスカッションを通じて、様々な生命の不思議に出会えることだと感じました。若手育成セミナーは、こうした研究者のつながりの場であると同時に、新たな研究の楽しさを教えてくれる場だと思います。また、神経化学会と並行して開催されるので、若手育成セミナーでお近づきになった先生方と、学会の会場でお会いすることが多々あるので、相乗的に親睦を深めることができるのも魅力の一つです。

そして、これは本セミナーとは別にはなってしまうのですが、日本神経化学会の理事長を務められております和田圭司先生と直接対談する「理事長と話してみよう」というユニークなセッションが今年から設けられており、学生の方が著名な先生方と直接お話しできる工夫が大会全体で築かれている印象を受けました。これらは悩みや不安の多い学生にとっては、非常にありがたい取り組みだと思いますので、こうした方々に大会並びに本セミナーの受講をおすすめ致します。

最後になりましたが、若手育成セミナーを開催、運営するにあたって、ご尽力して下さった関係者の皆様、特に、世話人代表である山梨大学薬理学講座の小泉修一先生、副代表である東北大学薬学研究科の森口茂樹先生をはじめ、世話人の方々、講師の先生方、チューターの方々に心より感謝申し上げます。まだまだ未熟者な私ですが、今回の育成セミナーで先生方から得たものを生かして、1日でも早く、研究者として成長した姿をお見せできればと思います。